

馮世傑著北京官話教科書に関する一考察 —北京語の文法特徴を中心に—

孫 云偉

A Study on Feng Shijie's Beijing Mandarin Textbooks: Focusing on Beijing Mandarin Grammar

SUN Yunwei

摘要

本稿以馮世傑所著『北京官話家言類集』(1906)、『北京官話清國風俗會話篇』(1906)、『北京笑語會話』(1909)為研究對象,參考太田辰夫、周一民、楊杏紅、盧小群、陳明娥等學者的相關研究,對三書中的北京話語法現象進行了考察。研究認為,『北京笑語會話』中的北京話語法特徵較少,這是因為其作為一部故事書,用詞較為書面語的緣故。與之相反,『北京官話家言類集』、『北京官話清國風俗會話篇』中的北京話語法特徵更加顯著。

キーワード:馮世傑、北京官話教科書、北京語の文法特徴

1. はじめに

日本における中国語教育は「日本政府が清国駐在公使を派遣するにあたり、北京官話が必要となった」¹⁾ことを契機に、1876年以降それまでの南京語教育から北京官話教育へ転換した。それを受けて、『亜細亞言語集支那官話部』、『官話指南』、『北京官話:談論新編』、『北京官話:中外蒙求』などの北京官話教科書がたくさん出版された。これらの北京官話教科書は多くの学者に注目された。そのうち1906年から1909年までに馮世傑が著した『燕語新編』(1906)、『北京官話家言類集』(1906)、『北京官話清國風俗會話篇』(1906)、『北京笑語會話』(1909)が刊行された。さらに、明治後期では馮世傑が著した教科書のように音声、注釈、翻訳が付けられた、日本人中国語学習者

¹⁾ 六角恒廣 1985: 152。

向けの北京官話教科書が数多く出版され、それらの教科書についての研究もかなり多い。しかしながら、馮世傑の著作についての研究は山田忠司（2003）のみである。そのため、本稿は馮世傑の著作が当時の北京語の文法特徴をどのように反映したか考察したいと思う。

2. 教科書と先行研究について

『燕語新編』と『北京官話家言類集』はともに馮世傑、市野常三郎、高木常次郎の共編により、積善館から1906年4月に出版されたものである。両書はともに序、目次、本文から構成され、前者は計260頁で、後者は176頁である。また、両書の奥付には書名、著者、発行者、印刷者、出版年月日、定価など以外に「京都 干城學校生徒募集」の要項、「告急清國留學生」など関連情報も掲示した。

『北京官話清國風俗會話篇』は馮世傑と野村幸太郎が共編し、1906年8月に文求堂から出版された。全書は序、凡例、目次、本文、附録から構成され、計210頁である。この附録は参考や補足の意味で付けられたものではなく、本文と同様であり、全12章で、タイトルも附する²⁾。『燕語新編』と『北京官話家言類集』は本文以外に本文の翻訳も付いている。『北京官話清國風俗會話篇』は本文の翻訳以外に、仮名表記、注釈や、漢字の四隅に圈点も付いている。『北京笑語會話』は前三項と違い、漢字の四隅には圈点しか付けられていない。しかも、『北京笑語會話』は一つ一つの物語を構成し、より書面語である³⁾。四冊の教科書の中で『北京笑語會話』のみ単著であり、1909年に上海で出版され、校閲者は金國璞と御幡雅文である。

先行研究については、前述の通り山田忠司（2003）のみである。日本では太田辰夫が北京語の文法特徴について七項目を提示し、100以上の語彙を取り上げ、当時の北京語の実態を綿密に描写した。山田忠司は太田辰夫1965年、1969年で指摘されている北京語の特徴と『燕語新編』がどの程度一致するか考察した上で、『燕京婦語』との言語の比較研究を行なった。結果としては『燕語新編』、『燕京婦語』と共に太田辰夫の北京語における七項目の特徴を共有し、また『燕語新編』は太田辰夫が指摘した北京語の特徴の多くの点と一致するため、両書の使用言語は北京語であるが、その実態がかなり異なっていると指摘した。

²⁾ 第1章から第12章までのタイトルは「介紹」、「訣別」、「尋人」、「行程」、「拜客」、「時令」、「慶賀」、「道惱」、「瞧病」、「謝勞」、「借貸」、「婦女」となる。

³⁾ 文例は以下となる。「一個婦人再醮，跟後夫狼和睦。那時候兒及清明節，自對後夫說：“前夫待我不薄，我欲上墳祭掃。”夫說：“狼好，我跟你一塊兒去。”兩個人來到坟前了，夫問：“婦，你已嫁我，你哭他作什麼稱呼？”妻說：“夫是我天，他是先天，你是後天，我應當哭他先天為是。”婦人就一痛哭先天不已。夫看他哭的甚慟情，不自禁也打算同哭。妻說：“你哭他用何稱呼呢？”夫說：“他娶你在前，我娶你在後，你稱他先天，我自好是稱他老前輩了。”（『北京笑語會話・稱老前輩』抜粋）

3. 三書における北京語の文法特徴について

日本と中国では、北京語の文法的、語彙的特徴についての研究成果が多数発表されてきた。中国では周一民、楊杏紅、盧小群、陳明娥などの精緻な研究がある。本稿は上述の研究成果に基づき、馮世傑が著した教科書の北京語特徴を考察する。また、山田忠司（2003）ではすでに『燕語新編』の北京語の特徴を考察したため、本稿では主に『北京官話清國風俗會話篇』、『北京官話家言類集』、『北京笑語會話』の三書に考察の対象とする。

3.1 代名詞

(1) 「咱們」と「我們」

太田辰夫（1969：186）は北京語で一人称代名詞の包括形（inclusive）と除外形（exclusive）を「咱們」、「我們」で区別し、「俺」、「咱」などは用いないと述べた。三書の中では包括形の「咱們」と除外形の「我們」も同様に区別されている。「咱們」は本稿で調査をした三書において「僭們」と書き、3例がある。また、『北京官話家言類集』、『北京官話清國風俗會話篇』には除外形の「我們」があるが、2例となる。用例は以下である。

- 1) 您晚半天有工夫，僭們就定規午後申刻怎麼樣。（『北京官話家言類集』第五章 踐行飲酒 p.24）
- 2) 僭們逛那兒去。（『北京官話清國風俗會話篇』孟春寅月正樂 p.7）
- 3) 僭們立刻找老虎去…。 （『北京笑語會話』大嘮小嘮⁴⁾）
- 4) 我們稅關上的人全是極有能耐的。（『北京官話清國風俗會話篇』仲秋酉月八 稅 p.143）

(2) 自称

周一民（2002：160）は北京語の中でよく使われる自称は「自个儿」で、「自己个儿」は方言として、あまり使わなくなっていったと述べた。三書の中の『北京官話清國風俗會話篇』では「自己各兒」が下記の1例のみである。「自各兒」も稀に見られるが、「自己」を用いることが多い。また、北京語の特徴としての「您納」、「他納」の用例も少なく、「您」、「他」がよく用いられる。三書では「您納」、「自己各兒」などの代名詞の使用頻度がかなり低いということから、馮世傑が編纂した北京語教科書には「您納」が「您」に置き換えられ、次第に「您納」が消滅していく傾向が見られる。

⁴⁾『北京笑語會話』では通しでの頁数がふられていないので、引用箇所を示すことができない。以下、頁数が示されていないのは同様の理由による。

- 5) 我自各兒楞拾掇看，行不行。(『北京官話清國風俗會話』仲秋酉有八藝 p.132)
- 6) 若是自己各兒共自己各兒往裏頭看，彷彿畫了一張山水兒似的。(『北京官話清國風俗會話篇附錄』仲春卯月二財 p.31)
- 7) 是為到上海的時候好托他納給我安置。(『北京官話清國風俗會話篇附錄』孟春寅月正喜 p.1)
- 8) 您納見面兒一說全有了。(『北京官話家言類集』第八章 請客未來 p.30)

(3) その他の代名詞

北京語の特徴を有する代名詞「這程子」、「多啫」などの表現は三書共に存在している。「這程子」に関して、陈明娥(2014:97)は清末の北京官話口語に新しく出現した代詞であると述べた。

- 9) 您這程子畫畫兒來着没有。(『北京官話家言類集』第十四章 遇見文人 p.59)
- 10) 您瞧這程子鱗魚的行市大長。(『北京官話清國風俗會話篇』季夏未月六漁 p.95)
- 11) 多僇開張哪。(『北京官話家言類集』第二十一章 朋友開張 p.88)

3.2 介詞

(1) 介詞「給」

北京語「給」の用法について、「給」を動詞の直後におくもの」と「動詞の前方(おおくは中間に名詞・代名詞をいれる)におくもの」の二つに分けられる⁵⁾。『北京官話清國風俗會話篇』、『北京官話家言類集』、『北京笑語會話』は「送給」、「遞給」、「交給」などのように前項の用例がそれぞれ4例、9例、9例ある。

- 12) 昨兒箇又有一箇大官要借官利債您，放給他不放給他呀。(『北京官話家言類集』第十三章 借貸銀錢 p.56)
- 13) 若是手把手兒教給他，他就是會累也是不漂亮。(『北京官話家言類集』第十四章 遇見文人 p.62)
- 14) 我賣給你了。(『北京官話清國風俗會話篇』仲秋酉月八稅 p.142)

(2) 起点を表す介詞

起点を表す介詞について、杨杏红(2014:135)は、「起」、「打」、「从」、「由」、「解」、「接」、「跟」の7つの介詞は日本の官話教科書の中に明らかに口語の特徴を有する北京官話語彙であると述べた。三書では「从」の用例が多くある。『北京官話清國風俗會話篇』、『北

⁵⁾ 太田辰夫 1974: 473、474。

京官話家言類集』には「打」と「解」はそれぞれ2例、4例しかなく、『北京笑語會話』にはまったくない。要するに、馮世傑が著した教科書では「从」を主な起点介詞として用いたことが分かる。

- 15) 你打幾兒回來的呀。（『北京官話家言類集』第四章 接風問答 p.17）
- 16) 打昨兒個纔把這幾家兒年拜完了。（『北京官話清國風俗會話篇』孟春寅月正 樂 p.7）
- 17) 你把昨兒個解上海寄來的那書目錄給我拿來。（『北京官話清國風俗會話篇』季秋戌月九 書 p.153）

3.3 助詞

(1) 助詞「來着」

助詞「來着」は北京語に特有のもので、過去または回憶の意味を表す⁶⁾。『北京官話清國風俗會話篇』、『北京官話家言類集』には「來着」の用例10例と5例あり、『北京笑語會話』は4例ある。

- 18) 他昨兒晚上看見您下車在門口兒往下搬東西來着。（『北京官話家言類集』第四章 接風問答 p.18）
- 19) 我跟王順鬧着玩儿來着。（『北京官話清國風俗會話篇』孟夏巳月四 富 p.68）
- 20) 我那天夜裏在床帳裏睡覺來着。（『北京笑語會話』好大蚊子）

(2) 助詞「呢」

北京語では助詞「哩」を用いず、「呢」を用い、動作事態の存在不変化、注意喚起、疑問の強調・疑惑・反詰などを表す⁷⁾。『北京官話家言類集』、『北京笑語會話』では下記のような状態の持続、疑問詞と共に起している「呢」の用例が数多ある。

- 21) 您是天天兒甚麼時候兒起來呢。（『北京官話家言類集』第一章 早晨問候 p.2）
- 22) 您怎麼知道我回來了呢。（『北京官話家言類集』第四章 接風問答 p.18）
- 23) 這玉字一的點兒乃是縣主所添，豈可擱在旁邊兒呢。（『北京笑語會話』自大為臭）
- 24) 此物大吉祥，怎麼說不利呢。（『北京笑語會話』僧入魚腹）

『北京官話清國風俗會話篇』では助詞「呢」の用例が少なく、代わりに「呀、哪」の使用が多い。楊杏紅（2014：144）によると、「哪」は日本明治期の北京官話教科書においてよく見られる語気詞のひとつであり、主に感嘆の語気を表すが、「哪」は

6) 太田辰夫 1974：475。

7) 太田辰夫 1974：475。

疑問の語気を表すこともできる」と述べた。下記の「哪」は疑問と状態の持続を表し、「呀」は疑問詞と共に起るから、「哪」と「呀」は「呢」の意味に相当すると考えられる。

- 25) 那怎麼會花不了呢。(『北京官話清國風俗會話篇』孟夏巳月四 富 p.66)
- 26) 這麼旦角兒還沒有哪。(『北京官話清國風俗會話篇』仲春卯月二 唱 p.19)
- 27) 我們心裡正是悶悶想事兒哪。(『北京官話清國風俗會話篇』孟夏巳月四 富 p.67)
- 28) 你買什麼玉器呀。(『北京官話清國風俗會話篇』孟夏巳月四 富 p.66)

3.4 副詞

(1) 禁止の副詞「別」

北京語では禁止の副詞「別」を用いる⁸⁾。三書の中に用例が見られ、『北京笑語會話』では6例あり、「莫」の用例が1例見られる。

- 29) 別提了。(『北京官話清國風俗會話篇』孟春寅月正 喜 p.3)
- 30) 可別那麼亂擲，那箱子裏頭有嬌嫩的東西。(『北京官話家言類集』第三十四章 住宿客棧 p.139)
- 31) 我不是求您寫字，是求您別寫。(『北京笑語會話』喜寫扇子)

(2) 程度副詞「很」

太田辰夫(1969:186)は程度副詞「很」を状語に用いるということが北京語の文法特徴であると述べた。三書ともにあるが、下記のような「形容詞+得很」の形式もある。

- 32) 您那差使繁得很哪。(『北京官話清國風俗會話篇』仲秋酉月八 士 p.121)
- 33) 您的鐵筆是高明得很。(『北京官話家言類集』第十四章 遇見文人 p.60)

(3) 副詞「老」

卢小群(2017:326)では、「老」は時間副詞として「总是」の意味を、程度副詞の場合は「很、极、过于」の意味を表す。三書の中には、『北京官話家言類集』で最も多く7例あり、『北京官話清國風俗會話篇』は2例あり、『北京笑語會話』は1例のみである。

- 34) 你老躲懶，底下人們作粗粗的事行了，你叫他做細緻活兒那兒行呢。(『北京官話家

⁸⁾ 太田辰夫 1974: 476。

言類集』第二章 終日常言 p.8)

- 35) 您怎麼老沒來呀。(『北京官話家言類集』第四十章 親戚往來 p.158)
36) 僭們哥倆老沒見了。(『北京官話清國風俗會話篇』季春辰月三 喝 p.47)
37) 你老人家老不歇心，少不勞力。(『北京笑語會話』飲酒累心)

(4) 副詞「所」

太田辰夫(1965:53)は北京語の「所」について、「すっかり」「ぜんぜん」の意味を表すと述べた。陈明娥(2014:130)によると、副詞の「所」は清末以前の中国本土の北京官話教科書にはあまり使用されていない語であると指摘した。杨杏红(2014:216)はさらに、副詞「所」の特性は他の副詞と異なり、十分な条件をもつ文法特徴が見られる。即ち、文献の中にこの用法が出現すると、その文献は清末の北京官話であると判断できると指摘している。『北京官話家言類集』では「所」の使用は1例ある、『北京官話清國風俗會話篇』、『北京笑語會話』には全くない。また、三書では「すっかり」「ぜんぜん」を表すとき、「全」を使うことが多い。

- 38) 管的事情不少所管的是各營。(『北京官話家言類集』第十五章 相逢武士 p.64)
39) 别的我是全不管…。(『北京官話家言類集』第一章 早晨問候 p.3)

(5) 範圍副詞「竟」

杨杏红(2014:90)によると、「竟」は日本において明治時期の北京官話教科書の中に頻繁に出現した範圍副詞であると述べ、「统括全体」と「限制」の意味を表し、それぞれ「都」と「只、光」と置き換えられると指摘した。

- 40) 這兩天我竟是拜年來着。(『北京官話清國風俗會話篇』孟春寅月正 喜 p.2)
41) 那么竟要官燕嗎？(『北京官話清國風俗會話篇』季春辰月三 吃 p.41)
42) 只要到時候兒熟菜熟飯兒預備好了，我竟去那麼一端就得了。(『北京官話家言類集』第一章 早晨問候 p.3)
43) 周圍竟是水莊稼。(『北京官話家言類集』第十一章 託友辦事 p.44)

(6) 語氣副詞「敢情」

太田辰夫(1965:53)は「敢情」が北方語であると述べ、周一民(1998:207)は「敢情」が肯定を表す語氣副詞であると指摘した。『北京官話清國風俗會話篇』には僅か3例あり、他の二書に用例ない。

- 44) 公敢情比京平大二分七厘。(『北京官話清國風俗會話篇』仲春卯月二 財 p.33)

3.5 そのほかの文法表現

(1) 「就是了」と「就得了」

太田辰夫(1965:55)は「得(dé)了」は文末に用いる表現で、北京語であると述べたが、意味についての解釈を説明していない。孟琮〈口語里的“得”和“得了”〉(1986:17)によると、北京語の口語表現の文末に用いる「就得了」は2つに分けられる。1つは「得」を強く読む時、ある種の条件、つまり発話者が要求することあるいは肯定することを表す。その意味は「就可以了;就行了」である。もう1つは「就得了」を軽く読むと、未然のことを表し、語気詞「得了」に相当する。また、楊杏紅(2014:150)によると、「就是了」は日本明治期の北京官話教科書では語気を表す“短語詞”であり、「就这样了」の意味を表すと述べた。『北京笑語會話』には、「就是了」の用例がなく、一方、「就得了」は4例ある。『北京官話清國風俗會話篇』、『北京官話家言類集』では「就是了」の用例がそれぞれ8例、2例あり、「就得了」はそれぞれ8例、5例ある。

- 45) 我收下就是了。(『北京官話家言類集』第六章 送禮物言 p.25)
- 46) 不敢當, 見面一說就是了。(『北京官話清國風俗會話篇』孟春寅月正喜 p.2)
- 47) 挑一箇有滋味兒的舖子就得了。(『北京官話家言類集』第九章 聽戲吃飯 p.40)
- 48) 那麼是一樣兩瓶就得了。(『北京官話清國風俗會話篇』仲春卯月二酒 p.22)

(2) 「～的(得)慌」

周一民(1998:124)は「的慌」を形容詞の「北京語における多音節接尾辭」に分類した。一方で、太田辰夫(1965:48)は「一部の心理・感覚をあらわす動詞につきその程度をあらわす」と指摘した。陳明娥(2014:52)によると、「的慌」は「主に不快な身体感覚、或いは精神上的の体験」という意味を表し、形容詞、動詞の後ろに付き、程度を表すと指摘した。三書の中に「的慌」の用法は合わせて5例ある。

- 49) 我是今兒心裏很悶得慌。(『北京官話家言類集』第十四章 遇見文人 p.58)
- 50) 那够多們累得慌啊。(『北京官話清國風俗會話篇』季春辰月三玩 p.53)
- 51) 不累得慌。(『北京官話清國風俗會話篇』季夏未月六樵 p.99)
- 52) ……晒得慌。(『北京官話清國風俗會話篇』季夏未月六耕 p.104)
- 53) ……我心裏狼熱, 急的慌。(『北京笑語會話』螃蟹有望)

(3) 接尾辭「咖」

太田辰夫(1965:55)によると、北京語では「咖」(jia または jie) という接尾辭があるが意味は全く無い。楊杏紅(2014:153)によると、「咖」は否定を表す時のみ

使用し、相手に応答する、「不咖了」はいつも感謝や断ることを表す時に使用すると述べた。『北京官話清國風俗會話篇』では「不咖」と「別咖」があり、それぞれ「いえ」と「だめです」という意味を表す。『北京笑語會話』と『北京官話家言類集』では「咖」の用例はない。

54) 不咖了。(『北京官話清國風俗會話篇』季春辰月三玩 p.52)

55) 別咖呀。(『北京官話清國風俗會話篇』仲夏午月五邪 p.88)

(4) 「形容詞+多了」

太田辰夫(1969:186)は「~多了」を形容詞の後におき「ずっと、はるかに」の意を表す。『北京官話家言類集』では1例あり、他の二書には用例ない。

56) 比那老信局走的可快多了。(『北京官話家言類集』第二十四章 往來書信 p.100)

(5) 「~上來」

太田辰夫(1965:48)によると、北京語では「~上來」が状態の完成への接近を表す。三書では下記の1例しかない。

57) ……遍地花草發黃全完上來了。(『北京官話清國風俗會話篇』附録 第六章 時令 p.30)

4. おわりに

本稿は馮世傑が著した教科書における北京語特徴の考察を通して、『北京官話家言類集』、『北京官話清國風俗會話篇』は北京語としての文法特徴が非常に著しいことがわかった。太田辰夫が指摘した北京語7項目はあるだけでなく、北京語の特徴を有している起点介詞「打」、「从」、「解」など、明治時代の北京官話教科書によく使用される副詞「所」、「竟」など北京語の特徴を有している文法表現も用いる。一方、『北京笑語會話』には北京語の文法特徴が極めて少なく、その理由は恐らく『北京笑語會話』全書は物語の構成で、『北京官話家言類集』、『北京官話清國風俗會話篇』と違い、より書面語の表現になっているからだと思われる。要するに、三書は同じく北京官話教科書とされていても、収録された北京語は決して均質なものではないと言える。

また、補説になるが、「兒化詞」は北京語語彙の重要な一要素として、馮世傑所著教科書にも大量に使用されている⁹⁾。しかも、『北京官話家言類集』、『北京官話清國風俗會話篇』では、「走動」、「姐兒倆」、「短」、「打把式」などのような北京語の特徴を

⁹⁾ 三書の中に、「隔壁兒、閤兒、門口兒、沒錯兒、根兒、時候兒、得味兒、旁邊兒、鄉下老兒、帽兒」などの兒化語がある。

有する語彙もかなり使用している。今後は語彙の特徴なども分析したいと考えている。

研究資料

馮世傑 市野常三郎 高木常次郎 1906『北京官話家言類集』積善館

馮世傑 野村幸太郎 1906『北京官話清國風俗會話篇』文求堂

馮世傑 1909『北京笑語會話』日本堂書店

参考文献

太田辰夫 1965「北京語の文法特点」『中国研究：経済・文学・語学 久重福三郎先生坂本一郎先生
還暦記念』久重福三郎先生坂本一郎先生還暦記念行事準備委員会

太田辰夫 1969『中国語学新辞典』「近代漢語」（太田辰夫執筆）中国語学研究会編

太田辰夫 1974「〈鏡花縁〉考」『東方学』48 輯

六角恒廣 1985「中国語教育史の時期区分」『早稲田商学』総第 313 号

山田忠司 2003「清末北京語の一斑：『燕語新編』を資料として」『文学部紀要』17(1)

孟琮 1986「口語里的“得”和“得了”」《語言教学与研究》第 3 期

周一民 1998《北京口語语法・词法卷》语文出版社

周一民 2002《现代北京话研究》北京师范大学出版社

陈明娥 2014《日本明治时期北京官话课本词汇研究》厦门大学出版社

杨杏红 2014《日本明治时期北京官话课本语法研究》厦门大学出版社

卢小群 2017《老北京土话语法研究》中国社会科学出版社